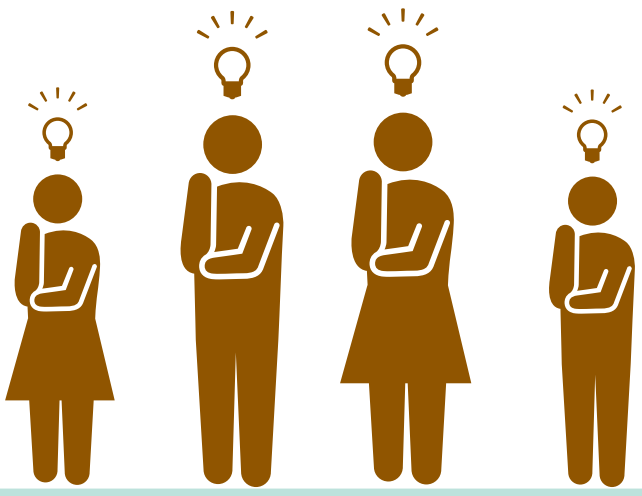
何か
地域の役に
立ちたい!

そんな思いがカタチになり、つながりが生まれ、
地域課題を区民と区が“協働”で解決する

そんな文京区の実現に向けて、
ソーシャルイノベーションへの基盤を構築しました!

〔文京区新たな公共プロジェクト成果検証会議報告書〕
〈概要版〉



1

協働で、より豊かな地域社会を築く方法を探るために

新たな公共プロジェクトに取り組みました！

文京区は、「協働・協治※1」による豊かな地域づくりを目指しています。

複雑化・多様化する社会課題が増加する中で、区が全ての課題を解決することは困難な状況にあり、これまでの政策だけでは、区民ニーズを満たすことができません。

そのため、区民を始めとする地域社会を構成する多様な個人、団体及び組織が、対話等を通じて関わり合いながら、自らの「得意」を持ち寄ることで、地域課題を明確にし、その解決策を導き出せるような「協働・協治」の基盤を整える必要があります。

しかし、「協働・協治」の実現には、多くの課題がありました。

- 少数の区民しか地域での活動やつながりに参加していません。
- 多彩な経験や意欲のある区民が多いにもかかわらず、地域との接点が少なく、一緒に動きだす仲間とのつながりもないため、その力を地域で活かせていません。
- 民間に地域課題の解決を委託することで、直面する課題を一時的に減らすことは可能ですが、それだけでは「協働・協治」に必要とされる総合的な地域の課題対応力を高めることはできません。

そこで、新たな公共プロジェクトがはじまりました！

対話から始まる地域課題の解決を図る担い手の創出・育成を行いながら、将来に向けた「協働・協治」の基盤づくりに取り組みました。

プロジェクトの背景

区は、平成17年4月に施行した「文の京」自治基本条例の中で「協働・協治」を自治の理念と位置づけました。さらに、平成22年6月に策定した文京区基本構想に掲げた新たな公共の担い手と区との協働を具体化するための方策について、平成23年度に「文京区新たな公共の担い手専門家会議」を設置して検討を進め、平成24年4月に「文京区と新たな担い手との協働の推進～文京区から始まるソーシャルイノベーションに向けて～」の提言が区長に提出されました。

この提言では、「従来のやり方に拘泥することなく、多様な主体が力を合わせるための場をつくり、担い手を新たに創出することを通じて、地域課題を解決し、地域経済の活性化にも寄与するというソーシャルイノベーションを文京区から起こすことによって、より豊かな地域社会を築いていける」としています。

提言内容の実現に向け、平成25年1月に区の取組方針をまとめ、平成25年度からの3か年事業として新たな公共プロジェクトを実施してきました。

新たな公共プロジェクト成果検証会議では、この提言内容の実現に向けて実施した新たな公共プロジェクトの担い手創出のための事業化スキームに関すること、新たな公共プロジェクトの各種事業の取組に関すること、各種事業の成果及び地域に与えた影響に関すること等を検証するとともに、今後の事業の方向性について検討を行いました。

なお、成果検証に当たり、これまで行政と民間との協働で一般的な「事業成果の重視型」の視点だけではなく、「協働・協治」の基盤として、地域の力を総合的に高めていく「協働プロセスの重視型」の視点からも検証を進めてまいりました。

※1　平成17年4月に施行した「文の京」自治基本条例では、「協働・協治」を「区民、地域活動団体、非営利活動団、事業者及び区が対等の関係で協力し、地域の情報、人材、場所、資金、技術等の社会資源を有効に活用しながら、地域社会の公共的な課題の解決を図る社会のあり方をいう。」と定義し、これを文京区の自治の理念と位置づけています。

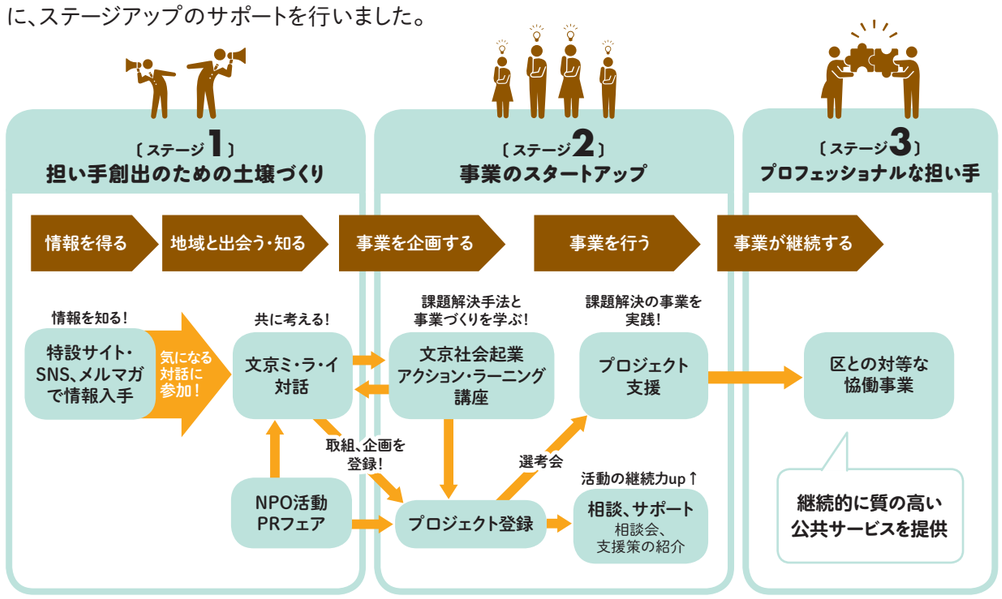
2

新たな公共プロジェクトのチャレンジ！

新たな公共の担い手の創出・育成を、文京区の現状を踏まえて
実現していくために、5つの「新しい試み」に取り組みました。

❶地域参画のステージアップを促す一連のスキームで、担い手を創出・育成

3つのステージを設けて、一連のスキームで担い手の創出・育成に取り組みました。その取組の中で、区民が対話を通じて地域課題を知り、講座で課題解決策を考え、そして地域活動を立ち上げられるように、ステージアップのサポートを行いました。



❷区民へのアプローチ

情報発信やネットワークづくりに力を入れて、新たな公共プロジェクトの参加者を増やしました。

❸協働プロセスの重視

地域のために自ら活動しようと考える方が、自ら発見した課題を、区や地域の人たちと継続的に協力して解決していくプロセスを重視しました。その結果、地域の課題対応力が高まることを目指しました。

❹区の組織・風土の改革

区職員も、対話の場やプロジェクト支援、研修等に参加することで、協働の意味を考える機会を増やしました。

❺推進体制

文京区協働推進委員会及び文京区協働推進委員会担い手創出プロジェクト支援本部※2を新設し、全庁的な取組とするとともに、新たな公共プロジェクト事務局を区とパートナー事業者との協働で運営しました。

※2　平成28年3月末に廃止

3

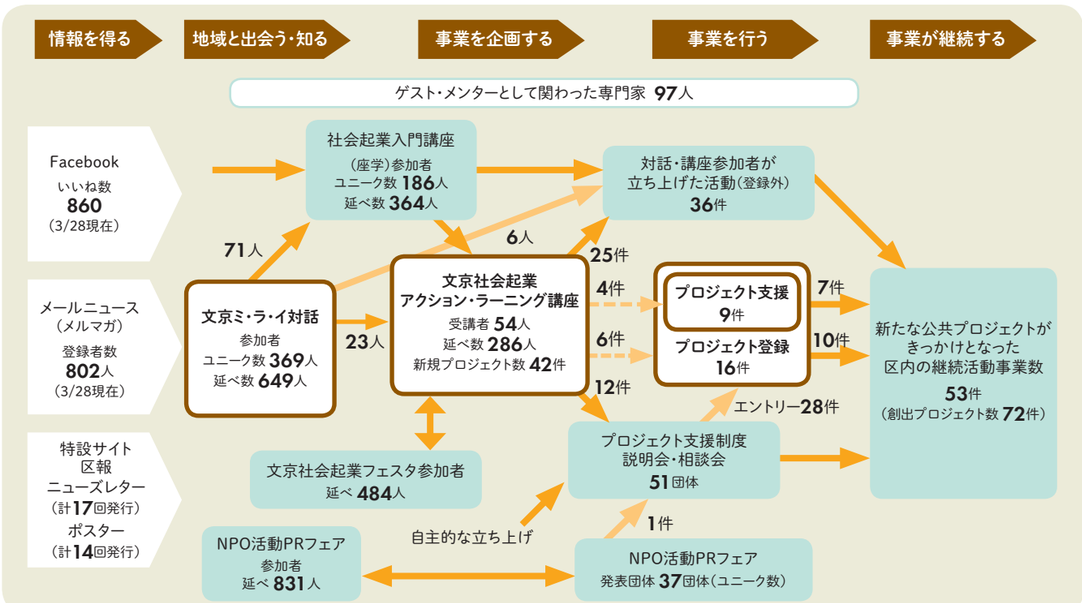
3年間の取組が生み出したもの

3年間で延べ2,943人の方が、新たな公共プロジェクトの各種事業に参加しました。
なお、ユニーク参加者数※3は、769人です。

主な事業の参加者の状況

	〔ステージ1〕			〔ステージ2〕	〔ステージ3〕
特設サイト・SNS・メルマガ	活動を生み出していく場				
	文京ミ・ラ・イ対話	社会起業入門講座	その他	文京社会起業アクション・ラーニング講座	プロジェクト支援制度
特設サイトやSNS（Facebook、Twitter）メールマガジン、ニューズレター等の多様な広告媒体を活用した情報発信	地域の課題や活動を知り、参加者同士でその解決策などを考える対話の場	社会起業の基礎を学ぶ単発の講座	説明会や準備会、交流会、その他の講座など	課題解決モデルの事業化を進めるための計画づくりと、地域における試行のアクションを通して事業モデルを確立していくための講座	課題解決方法のアイデアが固まっている事業で、一定の選考を経たプロジェクトを対象に、事業を自立的、継続的に運営していける体制と仕組みづくりのための、専門家による助言や支援金の交付等による総合的な支援
	649人	364人	329人	286人（受講生数54人）	登録：16件、支援：9件、
メルマガ登録数 802人 Facebookページ 860いいね	活動実践者に出会い、仲間を広げる場				
	NPO活動PRフェア			文京社会起業フェスタ	
	区内に拠点を置いて活動するNPO法人の知恵やノウハウを区民が学べる機会をつくることで、NPO活動への共感や支援の輪を広げるとともに、団体間の交流を促すイベント			文京社会起業アクション・ラーニング講座の受講生や、新たな公共プロジェクトから創出された団体などが一堂に会し、プロジェクト実施者とプロジェクトに関心のある方たちとが出会い、つながることができるイベント	
	831人			484人	

参加者は、その活動の段階に応じて、新たな公共プロジェクトの一連のスキームの中で、様々な軌跡をたどりました。



ステージ1の文京ミ・ラ・イ対話や社会起業入門講座の参加者から、29人がステージ2の文京社会起業アクション・ラーニング講座へ進み、
ステージ2の文京社会起業アクション・ラーニング講座から、6件がプロジェクト登録へ、4件がプロジェクト支援へと進み、そのステージアップを促しました。

プロジェクト参加者の声

〔地域と出会う・知る〕
文京ミ・ラ・イ対話

地域を見直すこと、仲間との話し合いの場を数多く持ち、関係を深めていくことの重要性を知りました。

〔事業を企画する〕
文京社会起業アクション・ラーニング講座

- 対象者を絞ることの重要性に気づきました。
- 新規事業は信用がベースなので関係性の構築が必要だと改めて気づきました。

〔専門家の意見を聞く〕
メンター・ミーティング

メンターという第三者の視点を取り入れることで、自分では完璧だと思っていた事業を振り返り、軸足を明確にする必要性を感じました。

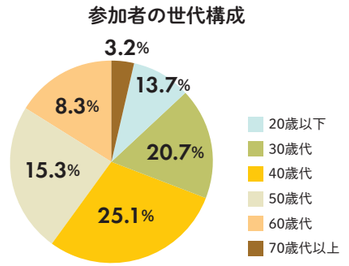
〔仲間を広げる〕
文京社会起業フェスタ

プロジェクトの拡大のため地域との接点づくりに苦心していましたが、社会起業フェスタで、地元の町会の人が興味を持って声をかけてくれたおかげで、地元でのマルシェ等に出展することができました。現在も町会のイベントなどと連携した活動が続いています。

〔事業を行う〕
プロジェクトを進める！

講座では一緒に事業を企画する仲間ができ、動き始めることができました。実際に、自分の考えを地域の人に問いかけていった結果、町会や地域の団体などと一緒に実現できました。

参加者の年代構成は40歳代が中心で、半数以上が50歳代未満でした。

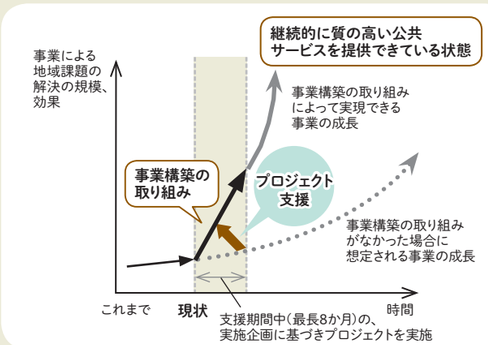


（参加者名簿等で把握可能なものを集計）

プロジェクト支援制度の仕組み

既に地域課題を解決するサービスを十分に提供できる団体を支援するのではなく、将来的に「継続的に質の高い公共サービスを提供する」ことができるような団体を対象とし、成長の“角度”を高められるように支援しました。

そのため、個人の思いから始まった活動の意義を、地域課題の解決の視点から再定義することで、地域への貢献のあり方や、共感を呼ぶメッセージの伝え方を整え、活動の基盤となる仕組みをつくる過程を、事務局や専門家、メンターが協働で取り組みました。



※3　ユニーク参加者数とは、同じ方が何回参加しても1人として数えた人数です。

子育てkitchenの活動

課　題：子育て支援

新しい発想：子どもはできると信じて、
料理も家事も親子で一緒に楽しもう！

解決方法：2歳児等が包丁や火を使う
料理教室を開催！
子どもは親が思う以上にできるということを
実感し、親子関係が変わる！

ツリー・アンド・ツリー本郷真砂、さきちゃんちの活動

課　題：学童保育や保育園等、子育て支援施設の不足

新しい発想：自分たちで作ってしまおう！

解決方法：●ツリー・アンド・ツリー本郷真砂
本郷真砂で地域の方たちの力を借りた
“地域密着”民間学童保育とカフェを運営！
●さきちゃんち
小石川の空きスペースを活用し、地域の方たちと
協力して、親子が安心していられる場を提供！

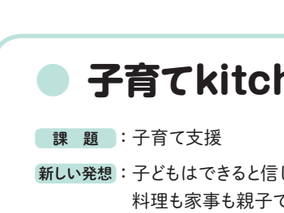
活動ピックアップ

文京映画交流クラブの活動

課　題：シニア世代の地域交流

新しい発想：みんなの好きな映画を使ってつながろう！

解決方法：ミドル・シニアが中心となって、「映画上映」と
「おしゃべり」の会をセットで開催！
映画をきっかけに集まった方たちがつながる！
さらに、つながりが広がり、文京映画祭を開催するまでに！



本郷いきぬき工房の活動

課　題：地域防災対策

新しい発想：日常の「まちあるき」と「防災」をつなぐ！
専門家と気楽に話せる！

解決方法：専門家や地域の方が集まり、「まちあるき」や
「ワークショップでの話し合い」から、
防災について正しく知り、正しく恐れることで、
災害に準備ができる方を増やす！

街を舞台に色々な活動が生まれるコミュニティ

きっかけ：NPO法人街ing本郷では、文人という地域資源を活用した
文人郷プロジェクト（平成25年度支援プロジェクト）で、
地域に古くから住む方が、若い方や新住民の方に
町のことを伝える「文人談議」等の活動を実施しました。

新しい発想：本郷のまちで活動したい方にとって、
地域の「入り口」が必要！

新しいコミュニティ：オープンな企画会議を定期的に開催し、
活動のアイデアを持ち寄り、企画の実現を考える場を
つくりました。そこから、ひとつ屋根の下事業、
書生プロジェクト、本郷百貨店、絵はがき講座等、
多様な方々のアイデアが
地域課題の解決につながる活動として
具体化していきました。

女性たちが仕事をきっかけに地域でつながるコミュニティ

きっかけ：非営利型株式会社Polarisでは、子育て中の
女性たちが地域で仕事をするコミュニティとして
ブンキョー庶務部（平成26年度支援プロジェクト）
を立ち上げました。

新しい発想：「仕事」をきっかけに、女性たちが地域でつながる！

新しいコミュニティ：最初は、「少し仕事ができれば」と消極的だった
メンバーも、自ら仕事を創る価値を見出し、
主体的に仕事づくりを継続しています。
さらに、仕事を通して「地域」にも目が向くようになり、
地域活動への参加も始まっています。

コミュニティへの波及効果事例ピックアップ

高校生と社会人が真剣に向き合って活動するコミュニティ

きっかけ：高校生チャリティ起業体験「まじプロ」（主催：NPO法人 Curiosity）は、
平成26年度の「文京社会起業フェスタ」で、ビジネスパーソンと
出会ったことからスタートしました。

新しい発想：高校生たちが、実際にお金を生み出す起業体験を
地域で行うことで、生きる力を学ぶ！

新しいコミュニティ：起業体験で大学生やビジネスパーソンたちが、
高校生の起業体験をサポートする中で、大人と高校生が
世代を超えて真剣に向き合うつながりが生まれました。
また、新しい中高生向けの教育のあり方を考えている方たちが
合流し、共に試行錯誤する仲間となっています。

新たな公共の担い手たちの活動

今も継続している**53**件の活動が生まれました。

新たな公共プロジェクト 各種事業への参加者の活動（活動数：39）

- 高校生チャリティ起業体験プログラム「まじプロ」（NPO法人Curiosity）
- まちの暮らしを喜び・楽しむ「まちのLDK」
- HOLISTIC HEALTH ～自然と調和して健やかに生きる～
- 思い出ラボ～高齢者の所蔵写真の収集を通じた人と街の記録の蓄積～
- 地域密着民間学童保育 ツリー・アンド・ツリー本郷真砂（株式会社ツリー・アンド・ツリー）
- 夜9時までの子育て支援（TEAM 空）
- 文の京囲碁交流サロンプロジェクト（文京区囲碁指導者連絡会）
- 地域でのスポーツ活動振興（NPO法人大江戸）
- 子育てkitchen（子育てkitchen）
- 文人郷プロジェクト（NPO法人街ing本郷）
- 文京映画交流クラブ（文京映画交流クラブ）
- 中高年女性のマイライフプラン見直しサポート
- 文京アートプロジェクト
- 文京子育て不動産（文京子育て不動産）
- セルフケアのためのお灸ワークショップ
- BUNNKYO TALKER 文の京の地域課題&情報シェアサイト
- 「子育て」を地域で支える「寺小屋キッズ文京」プロジェクト（文京区囲碁指導者連絡会）
- 地域コミュニティ情報共有のためのコミュニティ・チラシ（TEAM 空）
- ブンキョー庶務部（株式会社Polaris 文京支部）
- 産官学連携プロジェクトベースラーニング
- 文京ベビ・ナビ
- 文京ブック・カフェ
- 学生や若者の「やりたいこと」からの起業支援
- アート de わく waork Lab ～まちあるき&絵手紙教室～
- やってみよう！ はじめてのアート ～アートにふれる絵画教室～
- 夜もおもてなし東京 ～住民と訪日客の交流の場～
- 医療費節約café
- 健康古民家 かのう
- 障がい者のための旅行型研修プログラム
- ちいさな町をもっと楽しくするメディアrojiroji
- 文の京再発見環境検定
- 子ども料理科学教室（NPO法人市民科学研究室）
- 頭と心と体を鍛える ダビンチ・キッズ プログラム（ダビンチ・キッズ）
- B-ぐる友の会
- 文京区の子どもから発信して、地域をつなぐきっかけを作るフリーペーパープロジェクト（うふ・ふ編集委員会）
- ぶんきょう・いんぐれす（ぶんきょう・いんぐれす）
- まちのキャッチフレーズを使ったカルタづくり（文京かるた隊）
- ようこそサカミチin文京2023（本郷いきぬき工房）
- 減災 そなえーる東京

新たなつながりが広がったことにより、立ち上がった活動（活動数：10）

- 日曜空手道倶楽部（TEAM 空）
- さきちゃんち
- ひとつ屋根の下事業（NPO法人街ing本郷）
- おたがいさま食堂せんごく
- 文京映画祭（文京映画交流クラブ、小石川ウーマンベース 等）
- JIBUN（ウェブ・地域ニュース・メディア）
- 小石川ウーマンベース
- ペンと鍬
- ぶんきょうヘルシーガーデン
- 金融経済リテラシー普及協会

他の事業に合流し、継続している活動（活動数：4）

- 自分探検Lab（自分探検研究所）
- 現役サラリーマンによるアフタースクール「実践塾」
- シェアすることでつながるコミュニティの場づくり
- 地域デビュー応援隊 ・・・街にタダ住む人だけの人の背中を一緒に押しましょう

4

3年間の取組の成果と課題

新たな公共プロジェクトに多くの区民が参加したことで、様々な地域課題を解決するための活動が生まれました。さらに、一連のスキームによる各種プログラムの効果的な運営によって、様々なつながりや波及効果が生み出されました。継続的に検証すべき課題は多くありますが、区民が自分の考えを語り、自分のテーマで活動を始め、行政が参画していく流れは、これからの協働のプロセスとして大きな可能性があるといえます。なお、3年間の取り組みの成果と課題については、プロジェクト全体、ステージ1、ステージ2、ステージ3の項目ごとに整理しました。

プロジェクト全体

協働プロセスの重視型の協働モデル構築に向けて

成　果

❶ 区民の経験やアイデアを活かすための、協働のプロセスが整いました。
❷ 3つのステージを一連のスキームで運営することで、多様な区民が参加し、相互に応援し合う関係性を生み出すことができました。
❸ 区職員の協働に対する意識に、変化が生じました。
❹ 「事業成果の重視型」の協働が多い中で、一歩踏み込んだ「協働プロセスの重視型」の協働に取り組みました。

課　題

❶ 地域で生まれた活動が「継続的に質の高い公共サービスを提供する」状況までには至りませんでした。
❷ 既存の地縁組織（町会、自治会）、NPO及び企業と新たな公共の担い手とのつながりが十分とはいえません。
❸ 「協働・協治」のためには、具体的なビジョンを地域全体で共有し、関係者が共通のビジョンと視点を持つことが必要です。
❹ 3年間の実績を踏まえて、担い手の育成、協働プロセスに関する新しい成果指標を定めることが必要です。

ステージ1

区民の関心から地域への参加を促す仕組みづくり

成　果

❶ 特設サイト、SNS、ニューズレター等で、参加者の顔が見える情報発信をすることにより、新しい区民の参加を促すことができました。
❷ 区民の関心があるテーマで対話の場を開催することの意義が明確になりました。
❸ 対話を通して区民視点の課題が明確になり、区民が参加しやすい活動が生まれました。

課　題

❶ まだ区民の参加を促しきれていません。対話の場の継続的な運営や様々な情報発信が必要です。
❷ 区民視点から提案される課題や解決策を、区として施策等に活かしていく仕組みづくりが求められます。

ステージ2

地域から生まれた活動の継続力を高める仕組みづくり

成　果

❶ 個人の関心事から始まった活動を、地域課題の解決に役立つようにするためのステージアップの仕組みが整いました。
❷ 担い手と区民が出会い、仲間となり、活動の継続力が高まる機会をつくりました。
❸ 区内外の97名の起業家や地域づくりの専門家が取組に参画しました。
❹ 地域の方同士のつながりが、プロジェクトの自立発展性の向上と波及効果を生み出しました。

課　題

❶ 立ち上がった活動を継続的に支援し、自立して継続・発展できる事業力と地域への影響力が高い団体を増やす必要があります。
❷ 活動の実績だけでなく、可能性を多面的に評価し、活用する仕組みが必要です。

ステージ3

継続的に質の高い公共サービスを提供できる担い手づくり

成　果

❶ 個人の関心事から始まった活動を、公共的な視点から改めて意味づけるプロセスの重要性が明確になりました。
❷ 文京区で創出・育成され活動が、地域の方も参画することで、地域に根付いた継続的な事業となり、そこから地域の課題対応力を高めるようなソーシャルキャピタル※4が蓄積されました。

課　題

❶ 区外のNPO、社会起業家が文京区に根付き、地域・区と共に学び合いながら、地域の課題対応力と事業力を高めるには、新しい仕組みが求められます。
❷ 複雑な地域課題に対して、多様な活動が協力して成果を出すコレクティブ・インパクト※5の検討が求められます。
❸ 対話の場への参加や協働事業の拡大等で、区職員の意識変革を進めていく必要があります。

※4　ソーシャルキャピタル（社会関係資本）とは、人と人との関係性や助け合いが地域の力の源泉となるという考え方。
※5　コレクティブ・インパクトとは、立場の異なる組織（行政、企業、NPO、財団、有志団体等）が、組織の壁を越えてお互いの強みを出し合い、単独では解決できなかった社会的課題の解決を目指すアプローチのこと。

5

「協働・協治」の実現に向けて取り組むべき方向性

1 区民の関心あるテーマから、対話の場を通じた区民と地域の接点づくりに取り組む必要があります。

2 区民の視点を大切にすること、区の多部署での協働を深めることで、区が把握できなかった課題の発見や問題の予防が可能になります。

3 今後も3つのステージを一連のスキームで運営する取組を、継続して実施していくことが望まれます。

4 中間支援施設「フミコム※6」との連携を強化し、担い手の創出、育成及び支援に取り組む必要があります。

5 地域の課題や活動を把握し、社会資源と結びつける、コーディネーター機能を地域に広げ、定着させることが必要です。

6 「協働プロセスの重視型」の視点から、評価の仕組みをつくることが必要です。その際、社会的インパクト※7やコレクティブ・インパクト※5等、地域の総合的な課題対応力を高めるような視点が大切です。

7 区が、新しい時代、新しい課題に、区民と共に柔軟に対応できるように、「協働・協治」の基盤づくりに継続的に取り組む体制が求められます。

※6 「フミコム（文京ボランティア・市民活動センター）」は、文京区社会福祉協議会と区が連携して、ボランティア・NPO支援、新たな公共の担い手育成支援、団体の持続的な発展支援などを行っています。
※7 社会的インパクトとは、地域や社会に及ぼす影響や波及効果のこと。

あとがき

（ 新たな公共プロジェクト成果検証会議のメンバーより ）

佐藤真久委員長

東京都市大学環境学部教授

複雑化・多様化する社会課題を有する地域社会においては、区が設定した行政課題に対する対応ではなく、区民自らによる地域課題の発見と捉え直しが必要とされています。さらには、従来の資金提供に頼らない多様な主体による協働、集合的・自立的・継続的な「協働成果」（アウトカム）を生み出す協働を仕組みとして定着させることが必要とされています。今回の取組は、事業の直接的な結果だけでなく、地域の参加や相互支援の文化づくり等に豊かな結果が生まれており、近年、国内外で注目の高まっている協働プロセスの重視型のモデルとなる多数の要素が含まれています。ぜひとも「自治体と地域の担い手が学び合う協働のあり方」として、今後の関連施策の検討に役立つことを期待いたします。

手塚明美副委員長

NPO法人藤沢市市民活動推進連絡会 理事・事務局、協働コーディネーター

藤沢市での協働取組に市民の立場から関わってきた私にとって、今回の取組で興味深く思うのは、ステージ毎に参加が選択できたり、途中から参加できたりする仕組みがあることです。それぞれのステップで選択肢があり、それぞれで選ぶ自由があることで、多様な人たちが関わる仕組みになっています。アーンスタインの「住民参加のはしご」やハートの「子どもの参画のはしご」にあるように、協働は、形式的な参加から枠内の協働を経て、市民主体にステップアップしていくものです。今回の文京区の取組は、参画のはしごの最上段、地域住民が主体的に動き始め、そこに行政も参画するという動きへの挑戦であり、この動きが成熟していくと協働の先進的な取組になるでしょう。

井上英之委員

慶應義塾大学特別招聘准教授、INNO-Lab International 共同代表

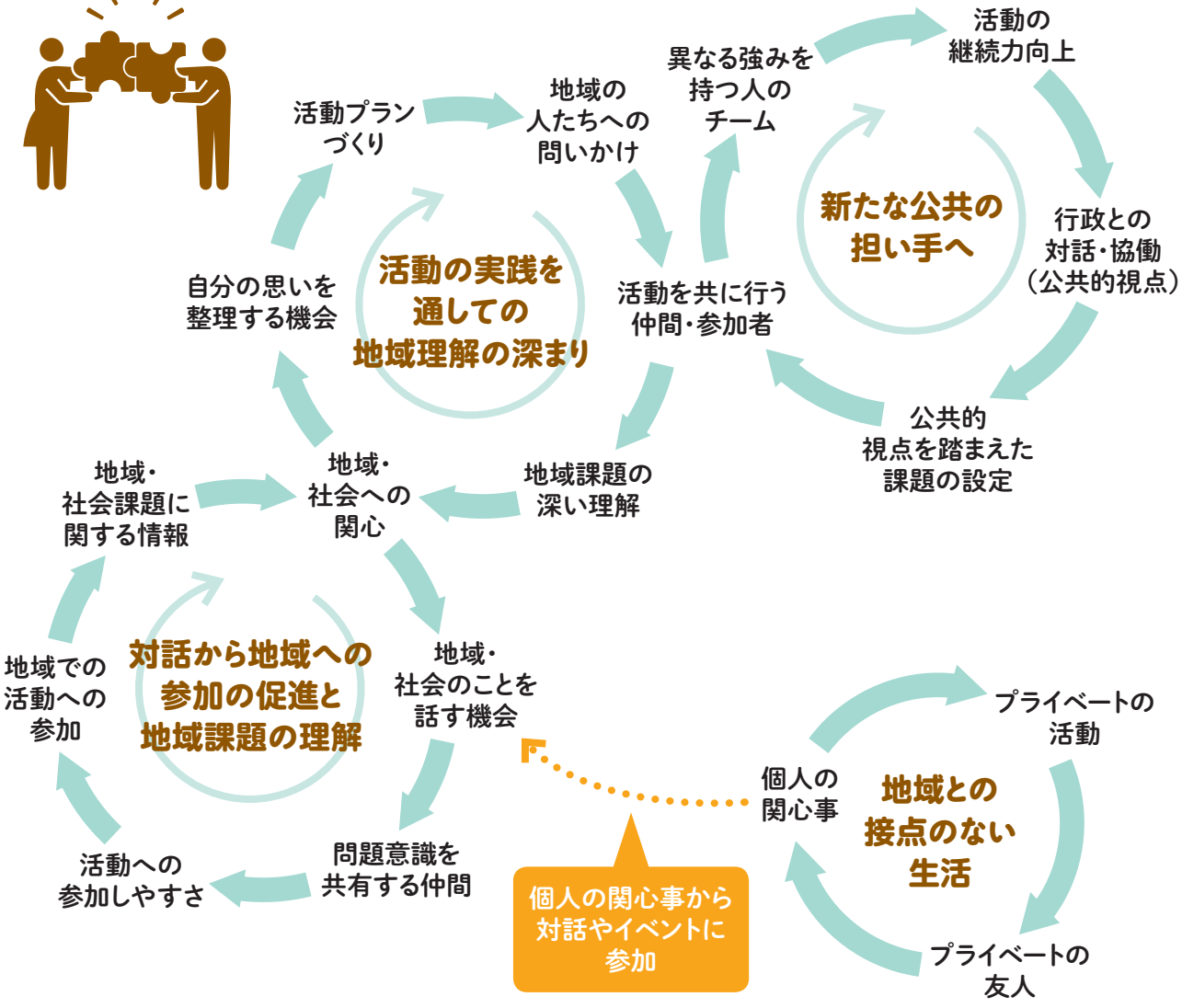
2011年の「文京区新たな公共の担い手専門家会議」から、5年強にわたるこの取り組みにご一緒させていただきました。当初、コンセプトでしかなかった、「どこかのすごい人」ではなく、文京に潜む小さなヒーローが浮かび上がっていくプロセスは、この3年間のたくさんの文京区の方々のご協力や予想もしなかった連携によって、見事に、数々の事例とともに、この地に潜む可能性を実証して下さいました。誰かに与えられたお題ではなく、自らの日々の「気になること」から、それを発信し、仲間をつくりながら何かを始める。その小さな火種の進化に、行政こそが「参画する」というプロセスが、最も現状を変えうる、生き生きした協働のプロセスとして効果的であることを、私たちは学びました。まだ、日本にも世界にもこうした試みに正面から取り組む事例は多くありません。ここで得た学びや課題は、やってみて初めて分かった大切な収穫でもあります。「新たな公共プロジェクト」は、区が設置した「専門家会議」から始まりましたが、主役はすでに、区民のたくさんの方々の手に移っています。文京の区民や民間の事業者、区役所のみなさんが、この3年間の経験から、どんな新しい未来を実現していくのか、とても楽しみです。

加藤良彦委員

NPO法人風のやすみば代表

この取組の根底にあるものは「新たな公共の担い手」として社会への関わり方に対する区民と行政の意識変革であり、その上で課題解決への区民の参加だと考えています。この事業に参加した区民の半数が30歳、40歳代の方であり、会場は地域への参画の思いと交流の熱気に溢れていました。また、そこで出会った方のネットワークから新たなプロジェクトが生まれたことは、これまでの文京区にはなかった新しい成果だと考えます。地味に見えますが、壮大なソーシャルイノベーションは始まりました。区民・行政の主体的な諸問題へのアプローチ、問題解決から温かく豊かなそして活き活きとした地域社会を築き、ひいては文京区の個性として定着することを願ってやみません。

個人の関心事から対話に参加し、地域の人たちと出会い、
話し合う、動くことによって、新たな公共の担い手へと育っていく。
そのステージアップを促す一連のプロセスを、
新たな公共プロジェクトは作ってきました。



文京区新たな公共プロジェクト成果検証会議報告書
〈概要版〉
平成28年9月

発行　文京区新たな公共プロジェクト事務局
文京区区民部区民課協働推進担当
株式会社エンパブリック
印刷番号　D0516027